

## 初期臨床研修としての離島研修

臨床研修センター 花岡 憲晟

医師は医師免許取得後、当初2年間は初期研修プログラムとして内科、外科、救急科などとともに地域医療を研修することになります。当院ではこの制度を利用し離島医療に参加してもらっています。離島医療研修のメリットとしては、急性期高度先進医療とは異なり、生活の場としての現地で研修する医療は高い総合診療能力を必要とし、加えて疾病予防、介護、看とりなど、幅広い問題について適切な対応ができる能力を身に付けることができると考えられます。今回当院で研修中の花岡先生に奄美大島での研修を受けていただきました。

7月の1ヶ月間、鹿児島県奄美大島の「みんなの診療所」で離島研修を行なって参りました。みんなの診療所は無床の診療所で内科、外科、救急科、小児科を標榜しており、内服調整中の慢性疾患の方から怪我の処置、子供の発熱と幅広い疾患の方々が来院されます。

当院のような基幹病院とは異なり行える検査が限られているため、ほぼ身体診察の所見のみで診断を行い、経過観察が可能な症状なのか、あるいはより高次の医療機関の受診が必要なのかを判断していました。一次医療施設でどのように診療が行われ、地域医療がどのように成り立っているのかを普段とは別の視点で経験できたことは地域医療を理解する上で貴重な経験となりました。

また、離島において医療資源が不足している問題は短い研修期間でも実感されました。人的資源は最たる例で、近隣の開業医院は高齢化で閉院が相次ぎ、耳鼻科に至っては島唯一の耳鼻科医院が閉院、専門医の診察は週に数日行われているのみだそうです。所長が専門外ながら耳鼻科診療をされており感銘を受けましたが、離島医療の問題を個人で解決する難しさも感じました。

休日やアフター5は奄美の自然を満喫できました。美しい海や山々、島固有の動物たちなど魅力がたくさんある島です。みなさんも訪れてみてはいかがでしょうか。

1ヶ月と短い期間でしたが非常に良い経験となりました。この経験を糧により良い医療人となるべく、今後も精進してまいります。



◀「みんなの診療所」外観

## 第44回 屋内消火栓操法競技大会 2位入賞 [Cブロック]

【開催日】

2023年10月6日

日頃の訓練の成果を発揮し競技に臨み、りんくう総合医療センター自衛消防団は2位に入賞することが出来ました。8月より毎週1～2日2時間程度の練習を重ねてきました。平時の業務とは異なる活動内容で、体力的にも技術的にも、練習は大変厳しいものでした。練習を重ね、チームワークを培っていった成果が結果につながったと思います。喜びでいっぱいです。

この競技は災害発生時に活用できる技術を身に付け、自主的な自衛消防体制の確立を目的として開催されるものです。競技大会や日頃の訓練を通し、当院をご利用頂いております皆様のさらなる安全・安心の確保に努めてまいります。



▶放水シーン



▶表彰式の様子

メンバー

指揮者：放射線部門 梅木 拓哉

1番員：5階海側病棟 看護師長 真鍋 和子

2番員：総務課 総務係 高川 一馬



## 泉州広域母子医療センター

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

## ●周産期センター（産科・小児科）

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。



QRコード



詳しくはwebサイトをご覧ください